

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

実施報告書

市 町 村 名 【 渋川市 】
担 当 部 局 【 渋川市教育委員会学校教育課 】

1. 事業全体について

実施した事業内容及び事業の概要	(1) 地域クラブ活動体制整備にむけた庁内検討委員会等の開催 ＜概要＞年9回（7月、1月、2月、3月） (2) 地域スポーツクラブ体制整備 「2. 地域スポーツクラブ活動の体制整備について」参照
主な成果	■ 渋川市の生徒にとってより部活動の環境の整備をするための検討をすることができた。また、土日（休日）の部活動の段階的な地域移行に向けて、情報交換をすることができた。 ■ 地域の受け皿となることを検討しているクラブと意見交換をし、体制整備実証に向けた話し合いをすることができた。 ■ 合同練習という形で地域の生徒を集め、実証事業を行うことができた。専門的な指導を受けることができた。昨年度より継続して取り組んでいるクラブについては、平日の活動に取り組んでもらうことができた。 ■ 生徒や学校のニーズにあった指導者が確保できず、地域クラブとしての体制が整わない競技もある。 ■ 鍵の借用方法や教室開放をすることによるセキュリティ問題がある。 ■ 体制整備事業による補助金が打ち切られた場合の、指導者報酬や賠償保険、地域クラブ運営費などの費用確保の難しさがある。 ■ 活動場所までの保護者送迎による負担がある。 ■ 規定・規約作りの難しさがある。
事業を実施していく上でのポイント	■ 他市町村と連携や情報共有をすることで、取り組むべき課題と推進していく方向性を確認することができた。 ■ 予算確保をするためには様々な機関との調整が必要となる。連携を密に取り、試算を含めた予算整理を早期にしておく必要がある。
令和7年度以降の方向性	■ スケート、体操、軟式野球、バレーボールは来年度も継続し、競技をさらに拡充し持続可能な部活動の地域移行を進めていく。

2. 地域スポーツクラブ活動の体制整備について

運営団体・実施主体及び活動の概要	① 渋川クラブ（スケート） ② 渋川市体操協会（体操） ③ S Y C（渋川野球クラブ） ④ V C 渋川-ZERO（バレーボール） ※ 中体連柔道競技部（柔道）※合同練習会（地域移行に向けた取組段階）
対象参加者	① 渋川市内の中学生 ② 渋川市内の中学生 ③ 渋川市内の小・中学生 ④ 渋川市立渋川北中学校、渋川市立子持中学校、渋川市立赤城南中学校 ※ 渋川市内の中学校柔道部
運営団体・実施主体との連携及び体制整備の概要	■ 学校の部活動指導に関わっていた指導者や連盟に協力依頼をし、取組を開始した。 ■ まずは土日（休日）の取組を中心として始めた。 ■ 教育委員会の部活動地域移行推進室が中心となり、クラブチームと連絡調整を図りながら実証事業に取り組んでいる。 ■ 活動場所については、クラブが学校と活動目の調整をして進めている。
運営団体・実施主体、指導者、学校等への支援	■ 学校に対して地域移行の現状と方向性について説明をした。 ■ 地域クラブの活動に訪問をし、実証事業を行うにあたっての課題や、今後の課題についての情報共有をした。
地域スポーツクラブの移行を進める上でのポイント	■ 地域移行を進めるにあたっては様々な課題がある。課題を解決するためには、多くの関係機関と連携し、情報を共有し、解決策を探していく必要がある。そのために、全国の取組についての情報を知ることや、他市町村との情報交換会などで先行事例や動向を把握していく必要がある。

令和6年度 群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業 地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業 実施報告書 地域スポーツクラブ【渋川スケートクラブ（渋川スポーツ協会スケート部）】		運営団体・実施主体・指導者の概要 ■ 渋川スケートクラブ（渋川スポーツ協会スケート部） 指導者5名（群馬県スケート連盟 強化コーチ3名） JSP0 公認コーチ1名		対象参加者 ■ 渋川北中学校、渋川古巻中学校、渋川中学校 各中学校より1名 計3名 ※小学生3～6年生、高校生も受け入れている。		活動の概要及び活動の様子 【夏 季】 <実施日・時間> ■ 毎週火、木曜日 19時から21時、土曜日 9時から12時 <実施場所> ■ 伊香保中学校 <実施内容> ■ 陸上練習を実施 【冬 季】 <実施日・時間> ■ 毎週火、木曜日 19時から21時、土曜日 16時から19時 <実施場所> ■ 伊香保リンク <実施内容> ■ 氷上練習を実施 <会費> ■ 5,000円 <保険> ■ スポーツ保険	
＜活動の様子＞  		市町村担当部署や学校、地域等との連携		■ 事務手続きや全国大会へ出場するときの費用面について協議を行った。		主な成果 ■ 練習環境が安定し、取り組むことができた。	
		主な課題		■ 全国中学校総体出場にあたり、学校登録とクラブ登録で費用差が出るのは不公平さを感じた。 ■ 市内の地域移行に向けた取組の体制が整っていない。そのため、移行に向けた方向性や活動の状況等が周知されていない。そのため、生徒や保護者への情報共有が課題である。		地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント ■ 指導者が混乱しないように、現状把握を実施してから、実証事業することが大切。 ■ 部活動地域移行担当者から各団体へ情報伝達、情報共有をする際、各組織と連盟、保護者と今後の方向性を明確にした方がよい。	
		令和7年度以降の方向性		■ 全国中学校総体等、日本中学校体育連盟が主催する大会への参加に際し、指導者、生徒ともに部活動に近い指導・対応をしていきながら、今後もクラブ活動の方向性を継続する。			

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業 実施報告書

地域スポーツクラブ 【 渋川市体操協会 】

運営団体・実施主体・指導者の概要	■ 渋川市体操協会 指導者 高橋直樹、茂木伯文、清水健二、その他協会所属の指導者 (すべて渋川市体操協会所属の指導者)
対象参加者	■ 渋川市体操協会に加盟し、中体連の大会に出場する意思を持った生徒及び協会主催の体操教室に参加している小学生で中学校でも継続して行う意欲を持った児童。 ■ 現在、中学生は男子1名、小学生は男子2名、女子5名が活動している。
活動の概要及び活動の様子	<実施日・時間> ■ 平日は水曜の夜7：00～9：00に ■ 休日は土日のどちらか1日に実施。(基本的に日曜日に実施)学校の体育館部活動のーコマに入れてもらい実施日を調整して行わせてもらっている。休日の練習は中学生と継続して練習する意欲を持った小学生のみで実施している。 <実施場所> ■ 社会体育の開放事業により渋川北中学校の体育館を借りて実施。 <実施内容> ■ 床、跳馬、鉄棒、平均台を順番に練習し、技術向上を図る。 <会費> ■ 基本コース (月1000円・週1日) 選手コース (月2000円・週2日) <保険> ■ 公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ安全保険 (生徒：800円) <その他> 現在に至るまでの経緯 ■ 代表である高橋直樹が渋川北中学校の教員時代に体操部顧問であったこともあり、退職後も継続して指導していたところ、部活動指導員の制度が始まりそのまま部活動指導員として継続して指導していた。しかし、令和5年の夏の大会をもって渋川北中学校の体操部が廃部となったことを受け、教育委員会や、スポーツクラブの社会体育移行の担当者がこの制度を紹介してくれて現在に至っている。また、登録させてもらった指導者は3人であるが、いつも指導に来られる状態ではないのでそれ以外の指導者も指導に来てもらっている。 <活動の様子>

	 	
市町村担当部署や学校、地域等との連携	■ 渋川北中学校の体操部が廃部になることになり、その後の受け皿として体操協会が請け負うことになった。その際、教育委員会や渋川市スポーツクラブの方と数回打ち合わせを行い、群馬県の本事業を紹介してもらった。実施報告等、教育委員会の担当者にお世話になっている。	
主な成果	■ 部活をやったりくてもできなかった状態から少しでもやりたい部活ができる状態になったと思われる。中学校で体操部がないところが多く渋川北中が最後の砦であったが、今後は体操協会に入ってもらうことにより体操部がない学校の生徒でも体操が練習でき、中体連の大会にも出場が可能となったことは大きな成果である。今年度は、男子中学生が1名であるが中体連の大会に出場できたことは成果である。一緒に練習している小学生にも続いてほしいと願っている。	
主な課題	■ 学校の教員には体操部の担当者を置いてもらいたい体育館の調整や細かい連絡等を取らせてもらっている。今後も担当が必要である。また、体操部があった中学校なので練習器具がそろっており、今後も渋川北中学校の体育館を使用させてもらわないとこの事業が継続できない。専用の体育館があればよいのだが。理想であるが現実とは……。■ 専門性の高い競技であるので、経験のある指導者でないと指導できない。渋川市体操協会は少人数で活動しているので、指導者の確保が大きな課題である。■ 今後、平日の放課後にも練習が行えるようになった場合に、渋川北中学校以外の子どもたちが通う方法が課題である。現状は親の送り迎えがないとできない。■ 練習器具が充実しているという点で今後も渋川北中学校を使わせてもらいたいのが、学校の事情もあると思うので、学校との連絡調整等はしっかりと行っていくことが必要。■ 現行のやり方だと、学校の理解が十分でないといけない。■ 今年度から、子供たちや親の要望にこたえられるように、基本コース（月1000円・週1日）と選手コース（月2000円・週2日）に分けて実施したが、選手コースの参加者が思いのほか少なかった。今後、中学生の参加者が続くのかと心配である。■ 中学生は部活動の代わりになるように選手コースを選択してもらっている。また、可能な限り平日にも練習日を設定できるように取り組んでいるが、指導者が確保できないと不可能である。学校側には迷惑をかけることも多々あるが、理解をしていただきながら取り組んでいきたい。	

令和6年度 群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

実施報告書

地域スポーツクラブ【SYC】

運営団体・実施主体・指導者の概要	■ SYC 指導者15名（地域指導者10名、大学生5名） 公認コーチ資格者5名
対象参加者	■ 市内中学生 3年－2名、2年－9名、1年－11名 ■ 市内小学生 6年－5名
活動の概要及び活動の様子	<実施日・時間> ■ 休日（土日等）－9：00～12：00 ■ 平日（木曜日）－19：30～21：00 <実施場所> ■ 休日（土日等）－赤城南中学校東グラウンド ■ 平日（木曜日）－子持総合運動場野球場 <実施内容> ■ 守備・打撃・走塁など野球の基礎練習 ■ 紅白戦、練習試合 <会費> ■ 月3,000円 <保険> ■ 公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ安全保険 <その他> ■ 子供たちの目線に合わせた指導を心掛け、守備や打撃・走塁などの基本を中心に練習している。 ■ 練習で身につけたことを試す場所として大会や練習試合など実践の場を増やしている。 <活動の様子> ■ プロ野球選手（後藤駿太さん【横浜ベイスターズ】）による練習会や練習体験会を企画



市町村担当部署や学校、地域等との連携	■ 茨川市教育委員会の担当指導主事と常に連携しながら、部活動の地域移行についての情報の共有に努めている。 ■ 中体連野球部主催の強化練習会に参加した。 ■ 中学校の野球部顧問と連携し、情報共有しながら、計画的に指導に当たっている。 ■ 中学校野球部と合同練習や練習試合を行っている。 ■ 中学校野球部の交流大会に参加した。
主な成果	■ 中学校の野球部の廃部に伴い、活動する機会を失った中学生に野球に取り組む場を与えることができた。 ■ 軟式野球を通じ、青少年の心身の健全な育成に取り組むことができた。 ■ 中体連軟式野球部登録した。 ■ 中学校野球部と連携し練習試合や合同練習を実施することができた。 ■ 中学校野球部の参加するクラブ主催の大会（駿太カップ）を開催した。
主な課題	■ 学校から離れた練習会場への子供の移動（送迎）に関する保護者の負担クラブとして参加できる大会がない。 ■ 指導者の仕事と野球の指導との両立。 ■ クラブチームの中体連郡市大会への参加（現状、クラブチームの代表1チームのみが県大会に参加）
地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	■ 子供の練習会場への移動の保護者負担の軽減 ■ ※デマンド交通支援の時間枠の拡大、負担軽減 ■ 競技ごとの指導者・練習会場の確保
令和7年度以降の方向性	■ 選手の特性に沿った指導を心がけ、投げる・打つ・守るなどの野球の基本的な技術の向上を図るとともに、選手が一人の人間として成長することを助ける指導を心がける。 ■ 中学校の部活動地域移行の更なる情報収集に努める。

令和6年度 群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

実施報告書

地域スポーツクラブ 【 VC渋川-ZERO 】

運営団体・実施主体・指導者の概要	■ VC 渋川（総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団） 指導者5名（地域指導者5名 内公認コーチ有資格者4名） ※日本スポーツ協会公認スポーツ指導者バレーボールコーチ2：2名 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者バレーボールコーチ1：2名
対象参加者	■ 渋川北中学校 男子 7名、女子 20名 ■ 子持中学校 女子 7名 ■ 金島中学校 女子 1名 ■ 市外中学校 女子 2名 ■ 小学生 12名（小学生（男女）も受け入れている） 中学生 男子 7名、女子 30名、小学生 12名 合計 49名
活動の概要及び活動の様子	<実施日時、場所> ■ 毎週月曜日（1月から）19時から21時 ■ 毎週水曜日 19時から21時 ■ 毎週木曜日 19時から21時 ■ 毎週日曜日 9時から12時 木暮組スポーツパーク赤城スポーツセンター 長尾小学校体育館 渋川北中学校体育館 <実施内容> ■ バレーボールの基礎技術向上 ■ バレーボールの練習通じて体力の向上（小学生中心） <会費> ■ クラブ入会時 1,000円（スポーツ保険等） 毎月500円（R6.10月より集金）

	※上期、下期分として3,000円を一括集金 <保険> ■ 公益財団法人スポーツ安全協会によるスポーツ安全保険 <その他> ■ 令和7年1月から市内の別クラブとグループ活動を実施しており、合同練習や練習試合を実施。 <活動の様子> 
市町村担当部署や学校、地域等との連携	■ 連携や情報共有に課題がある。クラブ活動利用施設の学校とは連絡を取ることができたが、今後に向けて市内全域の学校と情報共有ができると、よりよい連携が図れると思った。
主な成果	■ バレーボールに興味はあるがこれまで活動できなかった小中学生たちに、活動場所（環境）提供することができた。また、部活動（中学生）だけでは練習時間が物足りない中学生にも練習環境が提供できた。
主な課題	■ 地域スポーツクラブとしては中学生だけではなく、多くの年齢層（小学生等含む）にバレーボールを通じてスポーツに親しんでもらいたい、慢性的な指導者不足により年齢や成長（身体的、技術的）に応じた練習を行うことが難しい。 ■ ボール等の道具についても、不足している現状がある。購入や提供等を含めた調整をしてほしい。
地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	■ 完全にクラブへ移行されるまでは、行政と学校との連携・協力が必須です。クラブ発足当初から完璧に運営できるものではないため、行政や学校がしっかり連携していかないと共倒れになります。先生方が大変だというのかわかりませんが、働き方改革を前面に出すのではなく、「子ども達を第一に」考えた上で、今後の進め方を議論した方が良いと思います。
令和7年度以降の方向性	■ 当クラブとしては活動を継続していくつもりですが、移行されたからといって行政や学校からの協力が得られないのであれば、クラブとしての活動継続は難しくなります。指導者や保護者の金銭的負担も含め現状の部活動と同程度の活動ができるよう検討してください。

令和6年度 群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

実施報告書

市 町 村 名 【 榛 東 村 】

担 当 部 局 【 教 育 委 員 会 学 校 教 育 課 ／ 生 涯 学 習 課 】

1．事業全体について

実施した事業内容及び事業の概要	(1) 榛東村部活動地域移行協議会の開催 ＜概要＞年3回開催（6月、11月、2月） 委員：スポーツ協会会長、スポーツ推進委員会委員長、スポーツ少年団本部長、しんとうスポーツクラブ会長、中学校PTA会長、中学校校長、地域スポーツクラブ代表、学校教育課長、生涯学習課長 内容：今年度は、榛東村における地域移行の方針、部活動の現状の共有の他、下記アンケートや下記推進計画の内容について協議を行った。また、他市町村の地域移行の状況について情報共有をした。 〔 6月〕地域移行の方針の確認、アンケートの内容の決定、今年度の取組の検討 〔11月〕アンケート結果の共有、アンケート結果を基にした推進計画の検討 〔 2月〕他市町村の地域移行の状況の共有、来年度の活動内容の検討 (2) 生徒及び保護者、地域指導者を対象としたアンケートの実施 ＜概要＞本村における現在のニーズを把握するため、アンケートを実施した。上記協議会において出た意見を基にアンケートを作成した。中学校の生徒、保護者、地域指導者だけでなく、これから部活動に関わり始める小学校6学年の保護者を対象にアンケートを実施した。 (3) 榛東村部活動地域移行推進計画の策定 ＜概要＞上記のアンケートを基に、榛東村における地域移行推進計画を策定した。 推進計画については、基本計画や重点的な取組、地域移行に向けたスケジュールなどについて記載し、ホームページに掲載した。 (4) 指導者研修会の実施 ＜概要＞年2回（9月、2月） 内容：子どもたちのやる気を引き出すコーチング（9月） 成長期の子どものスポーツ障害予防について（2月） 地域移行の担い手となる指導者を対象にした研修会を実施した。研修会の内容を検討する際には、実際に指導に関わっている地域指導者のニーズを把握した上で、内容の検討を行った。 (5) 部活動地域クラブ活動指導者人材バンクの設置 ＜概要＞協議会での協議やアンケート結果から、指導に当たる人材の発掘が不足していることが課題として挙げられたため、人材バンクを設置した。地域住民を対象に募集を行い、 (6) 地域スポーツクラブ体制整備 「2．地域スポーツクラブ活動の体制整備について」参照

主な成果	■アンケートを実施したことにより、部活動地域移行に関するニーズを把握することができたため、推進計画を策定することができた。また、地域移行に関する課題も把握できたため、それを解決するための今後の事業内容についても検討することができた。
主な課題	■地域移行の主体となる担い手の不足 ■持続可能な活動にしていけるための財源の確保
事業を実施していく上でのポイント	■関係する部局との連携体制の構築 ■実施主体となつての協力体制の構築
令和7年度以降の方向性	■今回地域移行のモデルケースとなりうる活動ができたので、他の部活動へ広げていく。

2．地域スポーツクラブ活動の体制整備について

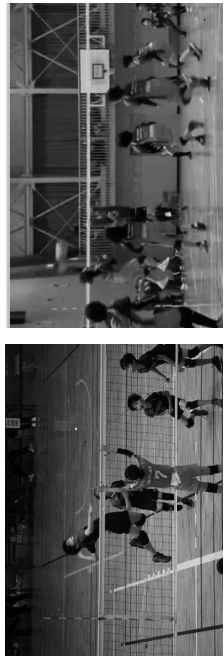
運営団体・実施主体及び活動の概要	①ペガソノVC（総合型地域スポーツクラブ） 実施：毎週火曜、金曜日 内容：バレーボール
対象参加者	①榛東村立榛東中学校バレーボール部生徒、小学6年生児童
運営団体・実施主体との連携及び体制整備の概要	■部活動の地域移行の担当者と面談を行い、地域移行に関する成果や課題を共有した。 ■市町村担当部局の職員が、実際の活動の様子を参観した。
運営団体・実施主体、指導者、学校等への支援	■社会体育施設使用の際にかかる費用の減免措置 ■総合型地域スポーツクラブが一括で加入する賠償責任保険加入事務の支援と共に、費用の一部補助 ■活動場所となる社会体育施設の使用申請事務の支援 ■会計事務、会計募集事務、総会資料作成事務 等
地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	■関係する部局や、地域スポーツクラブの実施主体と連携を密にし、適宜情報交換をしていくことが重要となる。

令和6年度 群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

実施報告書

地域スポーツクラブ 【 ペガッソVC 】

運営団体・実施主体・指導者の概要	■ しんとうスポーツクラブ ペガッソVC (総合型地域スポーツクラブ) 指導者 南 智 他 11名 (うちコーチライセンス所有者) 6名
対象参加者	榛東村立榛東中学校生徒 50名 (男女合計) ※小学生6年生、高校生も受け入れている。
活動の概要及び活動の様子	＜実施日・時間＞ ■ ペガッソVC (総合型地域スポーツクラブ) 実施：毎週火曜、金曜日、土曜 内容：バレーボール ＜実施場所＞ ■ しんとうスポーツアリーナ ＜実施内容＞ ■ 準備運動→ボールを使ったウォームアップ→サーブ・レシーブ練習といった個人技術向上のための練習 ＜会費＞ ■ 入会金 高校生以下 500円 一般 2000円 ■ 活動費 2000円/月 ※その他、遠征費などを状況に応じて徴収 ＜保険＞ ■ しんとうスポーツクラブ (総合型) で一括して加入 ＜活動の様子＞ 

	
市町村担当部署や学校、地域等との連携	■ 地域クラブ活動として活動するために、榛東村総合型地域スポーツクラブに加入した。これにより、 ・社会体育施設使用の際にかかる費用の減免措置 ・総合型地域スポーツクラブが一括で加入する賠償責任保険加入事務の支援と共に、費用の一部補助 ・活動場所となる社会体育施設の使用申請事務の支援 等を担当部局が実施した。 ■ 部活動の地域移行の担当者と面談を行い、地域移行に関する成果や課題を共有した。 ■ 市町村担当部局の職員が、実際の活動の様子を参観した。 ■ 子どもたちが競技の専門的な知識をもつ指導者から直接指導を受けることができたため、個々の技能向上につながった。 ■ 複数の指導者が、子どもたちの指導に当たることができたため、全体の競技力向上につながった。 ■ 子どもたちが総合型地域スポーツクラブへの参加となったため、近隣の学校の生徒と共に活動することができたことで意欲向上につながった。
主な成果	■ 今後、少子化により、子どもの数が減少していくことが考えられるため、参加してくれる子どもたちをどう確保していくか。
主な課題	
地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	■ 保護者と本人の理解を得ていくこと。ペガッソとしての保護者会を組織し、指導やビジョンを共有することのできる場を設けている。
令和7年度以降の方向性	■ ペガッソの活動をモデルケースとして、他の活動にも広げていく。